

東京都議会議員 都民ファーストの会東京都議団 幹事長

増子 ますこ ひろき



令和3年 東京都議会 第三回定例会報告

令和3年9月28日から10月13日まで第三回定例会が開催されました。増子ひろき都議は本会議において、都民ファーストの会東京都議団を代表して、小池都知事、警視総監、関係局長に質問しましたので、その主な内容を報告します。

代表質問の主な内容

1 臨時の医療施設について

Q 仮設病院について東京2020大会で使用した施設を医療資源として有効活用するなど、軽症者から中等症までを受け入れて治療ができる臨時の医療施設の整備を進めるべきと考えるかどうか？

A 軽症患者等の重症化を未然に防ぐため、酸素・医療提供ステーションや、一部の宿泊療養施設において、抗体カクテル療法を積極的に実施している。加えて様々な患者に対応するための機能等を勘案して、既存施設を活用した臨時の医療施設等を整備する。

2 感染した妊産婦への支援について

Q 新型コロナウイルス感染症に感染し、自宅療養を余儀なくされている妊産婦などに対して、地域の助産師などを活用して、より一層支援を行うべきと考えるかどうか？



A 東京都助産師会と連携し、地域の助産師が自宅療養中の妊産婦に対して、電話や訪問等による健康観察を実施していく。また保健所設置区に対し保健所における妊産婦への積極的疫学調査や健康観察の体制強化を図っていく。

3 薬剤師会との連携について

Q 東京都薬剤師会に所属する薬剤師は7,000名を超えており、高い専門性を発揮しながら広範な仕事を担っている。都の大規模接種会場ではワクチンの全体的な管理が重要な業務の一つとなっているが、薬剤師の知見を活かす取り組みを進めるべきと考えるかどうか？

A 東京都はワクチンの管理等の精度をより向上させることを目的に、専門性の高い薬剤師から技術的な指導や助言を得るため、大規模接種会場に都薬剤師から巡回指導のための薬剤師を派遣していただいている。今後巡回回数を増加させるとともに、薬剤師会に所属する薬剤師を、新たに運営する接種会場に配置し、専門的な知識や経験をより一層活かしていく。

4 感染症の後遺症について

Q 都立病院に設置された後遺症相談窓口や都立病院での臨床結果も交えて、後遺症の経過分析を行うべきと考えるかどうか？

A コロナ後遺症に対応している医療機関の情報を収集し、相談窓口で活用するなど、後遺症に悩む都民が身近な医療機関でより適切な医療を受けられるよう取り組んでいく。また東京iCDCにおいて医療従事者にも後遺症に関する情報提供を行うとともに、都立・公社病院と連携し、後遺症相談窓口等で蓄積したデータや症例を分析し、実態把握を進めていく。

5 学生の携帯料金支援について

Q 学生にとって、今やスマートフォンなど携帯電話は必要不可欠だが、コロナ禍によりアルバイト機会の喪失など、経済的に厳しい学生も多々いる。一定の所得以下の世帯の学生に対し、月額3000円程度の支援を行い、携帯電話料金の実質無償化を推進すべきと考えるかどうか？



A 都は緊急雇用対策としてアルバイトの機会を提供する取り組みなどを実施している。また生活困窮や仕事の喪失等により、悩みや不安を抱える方々に寄り添うため、各種相談対応や生活資金面でのサポートなど、様々な対応を講じている。厳しい状況に置かれている学生を支援するセーフティネット対策に全庁を挙げて取り組んでいく。

6 観光・飲食の支援について

Q 感染の再拡大を抑えながら飲食・観光も含めた経済活動を再生し両立していくために、近隣県と連携した域内観光の需要創出の取り組みや、飲食店の更なる業種転換や接種証明・陰性証明を活用した取り組みについて新たな支援を実施していくべきと考えるがどうか？



A 身近な旅行の需要回復を目的に、宿泊施設による周辺の観光施設等を活用したマイクロツーリズムのプラン作りを支援するとともに、域内観光ルートの開発に近隣県と共同で取り組んでいく。飲食事業者に向けては、テイクアウト・デリバリー等の業態転換支援の申請期限を12月末まで延長するとともに、空きスペースなどを活用したテイクアウト専門店を出店する際の経費の助成を開始し、事業再開を後押ししていく。

7 文化芸術政策の推進について

Q 都はこれまでの取り組みの蓄積を踏まえ、新しい文化政策の方向性を打ち出し、今後も文化芸術・ライブエンターテインメントの担い手の方々とともに、継続的に文化振興に取り組んでいく必要があると考えるがどうか？

A 文化プログラムのレガシーやコロナを乗り越えたその先を見据えた施策を盛り込んだ「新たな文化戦略」を今年度策定し、芸術文化の力が新たな時代の都市東京の成長とそこに生きる人々に喜びをもたらす文化政策を力強く推進していく。

8 同性パートナーシップ制度について

Q 今年度実施する大規模実態調査の結果に基づき、パートナーシップ制度の制度構築を早急に進めるとともに、都営住宅への入居をはじめ、都庁各局が提供する様々な都民サービスについて、同性パートナーに対象を広げること検討すべきと考えるがどうか？



A 制度導入により当事者が利用可能となる都民サービス等については、住宅や医療分野等、全庁の事業を対象に洗い出しを行っており、幅広い分野で活用できるよう各局と調整を行うなどして制度構築に向けた検討を進めていく。

9 地下鉄の子育て応援スペース拡大について

Q 都営交通と相互直通運転をしている他の鉄道事業者の路線にも乗り入れるなど、子育て応援スペースの一層の拡大や更なる機運醸成に取り組むべきと考えるがどうか？

A 先月末には「きかんしゃトーマスとなかまたち」の装飾デザインに加え、多くの方々に長く親しまれている絵本「ぐるんぱのようちえん」を採用した車両を新たに2編成導入し、現在9編成で運行している。今後は年度末までに、新宿線6編成、浅草線8編成に子育て応援スペースを導入し、相互乗り入れしている他社の路線内でも運行する予定。

10 学校行事の再開について

Q 部活動や宿泊を伴う修学旅行などの教育活動を展開するにあたり、PCR検査を活用した安全確保対策を検討すべきと考えるがどうか？



A 近距離での実施や日程の短縮等の実施方法の工夫に加え、国において議論されているPCR検査などの検査活用を含めた様々な方策について検討していく。

11 都立高校の男女別定員制度の見直しについて

Q すべての受験生が性別にかかわらずに評価され、合否が判定されていると実感できるよう男女別定員制度は是正すべき。受験生と学校側の準備期間も考慮したうえで、都立高校の男女別定員制度を段階的に緩和し、性別による不平等を撤廃すべきと考えるがどうか？



A 今年度は募集人員の1割について、男女合同の総合成績により合格者を決定する緩和策を、昨年度の42校から109校に拡大する。この入学者選抜の結果について分析・検証を行い、関係者との協議を精力的にすすめ、男女合同選抜の早期実施に向け取り組んでいく。

12 サステイナブル・ファイナンスについて

Q 各国がCO2削減への動きを加速させており、脱炭素化に向けた資金需要に対するファイナンスの重要性は、今後一層高まるものと見込まれている。今般改訂する構想において「サステイナブル・ファイナンス」の推進にどのように取り組んでいくのか？

A グリーンボンドの発行により、都みずから市場の発展をけん引するとともに、発行体のすそ野の拡大に向けて、近日中に外部認証等に係る費用の支援事業を開始する。また都の先進的な環境施策を発信するほか、新たに優れた環境技術を有する企業等の英語による情報開示を支援することなどにより、ESGにかかわる人材、企業、資金の集積につなげていく。

増子ひろきプロフィール 昭和60年衆議院議員秘書、平成3年～17年文京区議会議員（4期）、平成11年第35代文京区議会議員、

平成17年～25年東京都議会議員（2期）、平成29年～現在 東京都議会議員（4期目）、都民ファーストの会東京都議団幹事長



増子ひろき
連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-20-5 E-mail mail@masuko.tokyo

◎ご意見をお寄せください